

# 今後の学童保育のあり方と 長期休暇中のニーズへの対応について

2025年9月町田市議会 矢口まゆ

## 学童の待機児童の現状

- 新年度利用開始の申込者全入に申し込みが間に合えば、低学年と障がいのある児童は必ず入会できる。
- 待機児童数

	4月1日時点	7月1日時点	8月1日時点
待機のあるクラブ	9クラブ	7クラブ	14クラブ
待機児童数	72名	50名	69名

- 学童は長期休暇中のみのニーズが発生するのが未就学児の保育園幼稚園とは大きく異なるところ。

## 学童に入れなかったら、 子供たちはどこで過ごす？

- 保育園の、学童一時預かり
- ファミリーサポートセンター事業

誰かが見ている「保育サービス」  
学童一時預かりは待機が多い地域は供給少ない  
ファミサポはマッチングがうまくいかない可能性  
があり、日常的に利用するには費用負担が課題

- 子どもセンター
- 子どもクラブ

子どもが一人で利用できる遊び場、居場所  
開館時間が10時  
平日休みもある

- 習い事やその他民間の保育サービス

家庭が全額自費で対応するもの  
選択的で自由度が高いが家庭の負担大

- 留守番 ✕

大人の目が必要、サポートが必要と  
考えているから学童に申し込んでいるのでこの選択肢はNG

## 解決策として

- 子どもセンター
- 子どもクラブ

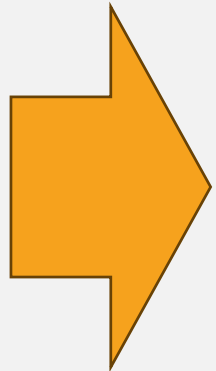
開館時間が10時  
平日休みもある

開館時間を早める  
平日休みを少しでも減らす

- 習い事やその他  
民間の保育サービス

選択的で自由度が高  
いが家庭の負担大

習い事等の利用に対して  
補助金を出す



長期休業期間だけの需要、利用日数が少ないけれども退会させると居場所がなく困るという家庭が、これらのサービスを選択しやすくすることで、待機児童の解消につながるのでは。

たとえば

月の利用が15日以下で、月額3000円の利用料を支払うAさん。

- ①学童を利用して3000円を支払う
- ②学童をやめて3000円の習い事クーポンをもらう

の2択で選べるようにしたら？

これまで学童に支払っていた3000円の負担がなくなり3000円が手元に入るので、実質6000円のプラスとなる。

市の財源から出ている学童にかかる費用とのバランスも考えて金額設定を行えば、

- 1、子どもたちと親からすると選択肢が増える
- 2、市からすると、市の財政負担が減る
- 3、学童全般の現状から考えると、狭隘化の問題や待機児童の解消につながる

町田市の学童保育利用料

減免 区分	市町村民税 所得割額	1人目	同時利用する 場合の 2人目以降
		在籍日数が月15日以下 のとき	
減 免 区 分 1	生活保護世帯または 市区町村民税非課税世帯 及び中国残留邦人等への支援給付を受けて いる世帯	0円	0円
		0円	
減免 区分2	均等割のみ課税世帯及び 所得割額 48,600円未満	3,000円	1,500円
		1,500円	
減免 区分3	所得割額 48,600円以上 60,000円未満	6,000円	3,000円
		3,000円	
減免 区分4	所得割額 60,000円以上 162,000円未満	7,000円	3,000円
		3,000円	
減免 区分5	所得割額 162,000円以上 313,000円未満	8,000円	3,000円
		3,000円	
減免 不承認	所得割額 313,000円以上	9,000円	3,000円
		3,000円	
減免申請なし		9,000円	9,000円

## 学童保育の質向上に向けた取り組みと 統廃合による影響への対応

- 福祉サービスの第三者評価について、受審をしていくべきではないか？
- 統廃合による長距離化への対応について検討すべきではないか？交通事故や犯罪への懸念はもちろんだが、特に真夏の猛暑日に夏休みでも毎日徒歩で登校所しなくてはならないのは負担が大きすぎる。  
例：学校跡地には原則学童機能を残す  
学校跡地に、中継地点として子供が一旦立ち寄って過ごすことができる機能を作る（休憩してから自宅へ帰宅、そこで保護者の迎えを待つなど）